

一般社団法人日本解剖学会 2014年(平成26年)度第1回常務理事会記録

日 時：平成26年2月8日（土）13:00～16:45

場 所：東京医科歯科大学 MDタワー18階 小会議室

出席者：河田光博（理事長）、寺田純雄、仲嶋一範、藤本豊士（以上、常務理事）、阪上洋行、松崎利行（以上、常任幹事）、天野恵子、中村 聡（以上、口腔保健協会）

I. 会議記録の確認

- (1) 2013年(平成25年)度第7回常務理事会（平成25年12月7日開催）記録（案）
- (2) 2013年(平成25年)度第6回理事会（平成25年12月7日開催）議事録（案）

II. 報告事項

1. 庶務報告（河田理事長）

(1) 会員異動報告

資料に基づき、以下の通り報告された。

平成25年12月分（入会者：正会員1名、退会者：正会員18名、学生5名、代議員4名）

平成26年1月分（入会者：正会員31名、学生29名、退会者：正会員9名、名誉会員2名）

逝去会員2名

見上晋一氏（岩手大名誉教授/名誉会員）平成25年9月18日逝去（享年89歳）

大内弘氏（岡山大学名誉教授/名誉会員）平成26年1月18日逝去（享年98歳）

(2) 会費納入状況(長期未納者の除名について)

資料に基づき2年以上の会費未納者リストが報告された。3年未納者には解剖学雑誌発送停止、4年未納者は退会となるが、該当者には支部長からまず通達してもらうこととした。

(3) 学会宛文書類について

資料に基づき、以下の通り報告された。

①通知・依頼：(株)大矢商会より「平成26年1-6月の各学会総会・研究会・集会一覧表」他38件あり

②書籍、定期通信 他：中日友好医院より「中日友好医院学報Vol. 27-4, 5」他12件あり

(4) 各種委員会報告について

資料に基づき、平成26年3月28日に開催される定時社員総会での各種委員会からの報告事項が確認された。胎児標本・人体標本についての取り扱いワーキンググループからの報告は、委員会報告ではなく、理事長報告として説明することとした。

(5) 定時社員総会資料作成について

平成26年3月28日に開催される定時社員総会の資料が確認された。報告事項7として学術会議マスタープランについての報告を加えることとした。資料は2月下旬までに完成させて学会ホームページに掲載することとした。

(6) 定時社員総会の案内と書面表決書について

資料に基づき、平成26年3月28日に開催される定時社員総会の案内と書面表決書の内容について確認された。

(7) 男女共同参画学協会連絡会報告

資料に基づき、平成25年11月21日に開催された第12期男女共同参画学協会連絡会 第1回運営委員会（解剖学会からは今城純子氏が出席）の議事録について説明された。

(8) その他

特になし

2. 編集報告（藤本編集担当理事）

(1) 解剖学雑誌及びASI刊行報告

資料に基づき、ASIの発送状況と、今後の解剖学雑誌並びにASIの刊行予定について報告された。

(2) その他

特になし

3. 企画・渉外報告（仲嶋企画・渉外担当理事）

(1) 平成25年度日本解剖学会奨励賞について

資料に基づき、平成25年12月26日に開催された平成25年度日本解剖学会奨励賞選考委員会の報告がされた。おもな報告内容としては、次の2点であった。

①受賞候補者として4名を理事会に上申することに決定した。

②理事会への申し送り事項として、申請書に入会期間の記載欄を設けること（一時退会し、再入会した申請者がいたため）と共著者の同意書に関する記述についての文言の修正案が提起された。

- (2) 2014(平成26)年度総会・全国学術集会準備状況について
資料に基づき、2014(平成26)年度総会・全国学術集会準備状況が報告された。シンポジウムでは若手による企画を多く採用し、ベテランの先生による講演については学術教育講演という形で企画されたことが説明された。
- (3) 2015(平成27)年度総会・全国学術集会準備状況について
河田理事長から、2015(平成27)年度総会・全国学術集会準備状況について以下の通り報告があった。2015年度は生理学会との合同大会となり、日時は2015年3月21日(土)～3月23日(月)、場所は神戸コンベンションセンター。平成26年2月8日の午前中に生理学会との合同の委員会が開催され、解剖学会からは河田理事長が出席した。なお、篤志解剖全国連合会は3月19日～20日に京都府立医科大学でおこなわれる。
- (4) 日本医学会報告
資料に基づき、平成26年2月28日に開催される予定の日本医学会COIマネジメント研修セミナーのプログラムについて紹介された。寺田理事が出席予定。
- (5) 生物科学学会連合報告
平成25年12月26日に開催された生物科学学会連合 教科書問題検討委員会 第1回の報告書が示された。解剖学会からは竹田扇氏(山梨大学)が出席した。高等学校の生物の教科書の用語の統一をおこなうために、次の会議までに各学会が関係する領域から問題のある術語をリストアップすることとなっている。その作業のために、解剖学会でワーキンググループを立ち上げる予定であることが報告された。
- (6) 日本脳科学関連学会連合報告
資料に基づき、日本脳科学関連学会連合のロゴマークが決まる見込みであること、および、連合ホームページの「一般からの質問コーナー」に対応するため会員学会担当者・回答者の推薦依頼があったことが報告された。常務理事で相談した結果、会員学会担当者としては宮田卓樹氏(名古屋大学)、会員学会回答者としてはマクロ分野担当:佐藤二美氏(東邦大学)、ミクロ分野担当:尾崎紀之氏(金沢大学)、発生分野担当:宮田卓樹氏(名古屋大学)をそれぞれ推薦したことが報告された。なお、質問内容が多岐にわたる可能性を鑑み、実際の運用にあたっては、会員学会担当者と会員学会回答者は協議して回答者として相応しい解剖学会員を選出し、回答案作成を依頼する形で対応する予定であることが説明された。
- (7) その他
特になし

4. 会計報告(寺田会計担当理事)

- (1) 平成26年度決算中間報告について
資料に基づき平成26年度1月次会計報告がおこなわれた。入会金・会費収入等の収入、全国学術集会準備金や会誌関係・事務関連等の支出の他、特筆すべき動きはないことが説明された。
- (2) 支部学術集会収支報告について
資料に基づき支部学術集会収支報告について説明された。今後各支部の収支報告書につき、細目等統一された記載フォーマットを用意するほうが良いのではないかとの意見が出された。
- (3) 平成25年度決算書概要(案)、ならびに公益支出計画書について
資料に基づき平成25年度決算書概要(案)、ならびに公益支出計画書について説明された。収支共に執行率上問題となるような極端な多寡はなかったこと、また支出の部において特に増減の著しかった細目(法人化移行にともなうホームページ運営費増加、臨時社員総会資料作成のための印刷費の増加と電話回線解約による通信費の減少等)について説明された。
- (4) その他
特になし

III. 審議事項

1. 新入会員の承認について(庶務)
資料により新入会員60名のリストが示され、全員の新規入会が承認された。
2. 申請による代議員審査について(庶務)
資料に基づき、3名の申請による代議員申請について説明があり審査された。そのなかで申請資格に関して議論され、医・歯学部での解剖学の教育を担当していないが、研究面で形態学の研究には十分に貢献している場合の扱いをどうするかについて問題となった。今回の申請でもこの点に該当する申請者がおり、今後も同様のケースが増えることが考えられる。本件は理事会のメール審議にかけられるが、各理事が審査するにあたっての申請者についての情報が少なく、判断材料が不足するため、常務理事会からのコメントを加えることとした。コメントの内容については近日中に常務理事間でまとめることとした。また、今後、申請書に推薦代議員からのコメント欄等を設けることも検討され、申請締め切りを現状の12月31日から10月末くらいに改め、12月の理事会で議論することとした。
3. 永年会員の推薦について(庶務)

資料に基づいて、7名の永年会員推薦について説明され、社員総会に推挙することで承認された。また、永年会員のバインダーについて事務局からの提案があり、次年度からバインダー表面に学会ロゴマークを入れることとした。

4. 次回常務理事会・理事会・支部長会・各種委員会の日程・議事について（庶務）
資料に基づき、次回常務理事会・理事会・支部長会・各種委員会の日程について確認され、各種委員会については出席常務理事の割り振りをおこなった。
5. 人体および人体標本提言の補足指針について（理事長）
「人体および人体標本を用いた医学・歯学の教育と研究における倫理問題に関する提言」の補足指針として策定した、ミクロ標本の扱いについての指針（補足）に関して、病理学会、法医学会との共同の指針（補足）とするかについて検討され、河田理事長から両学会の意見を聞いてみることにした。
6. 2015（平成27）年度以降のASIにおける契約について（編集）
資料に基づき、2015（平成27）年度以降のASIにおける契約について、シュプリンガーからの提案内容が説明され、審議された。英文校閲なしとした場合や、完全電子ジャーナル化とした場合の費用についての提示もあったが、英文校閲はおこなうこと、当初は冊子体ありとしておいて電子ジャーナル化については様子を見て考えていくこととした。また、シュプリンガーからは契約期間6年が提案されているが、学会側から4年で提示してみることにした。
7. 平成26年度奨励賞選考委員会の人選について（企画渉外）
平成26年度奨励賞選考委員会の人選をおこなった。
8. 平成25年度日本解剖学会技能士功労賞について（企画渉外）
平成25年度日本解剖学会技能士功労賞を2名に授与することで承認された。また、今後は12月の理事会で審議をおこなうことが可能になるよう、本賞の締め切りを現状の12月31日から改め10月下旬とすることが提案され、了承された。
9. 生物科学学会連合教科書問題について（企画渉外）
生物科学学会連合教科書問題の解剖学会におけるワーキンググループの構成員として、竹田扇氏（山梨大学）からの提案通り、竹田扇氏、坂井達雄氏（順天堂大学）、岩永敏彦氏（北海道大学）、金子武嗣氏（京都大学）の4名が承認された。
10. COIへの対応について（企画渉外）
資料に基づき、他学会におけるCOI運営状況について説明され、解剖学会の対応について審議された。大会発表時のCOI開示については簡単にできることであるので、解剖学会でも取り入れる方向とし、学会役員就任時などの審査については今後の検討とすることになった。
11. 会員名簿作成について（理事長）
資料に基づいて、会員名簿作成について審議され、ワーキンググループを設置することとした。なお、委員長以下のメンバーについては次回の常務理事会で決めることにした。
12. その他
資料に基づき、河田理事から解剖学会における若手育成に関しての話題が出された。解剖学会では2012年3月の本大会で「研究医養成推進のためのワークショップ」を開催し、盛況であったが、以降は継続的な取り組みをおこなっていない点に触れられ、学会として研究医に限らず若手育成に関して長期的にどのような取り組みをすべきか意見が交わされた。動物学会では高校生のポスター発表の場を設けているとのことであるが、解剖学会ではマクロ解剖に関する内容のポスター発表もあることから、高校生を招くことは必ずしも適切ではないのではないかと意見が出された。また、医学部の学生がおこなった優れた研究に対して表彰するような制度を設けたらどうかとの意見も出された。若手育成の件については、教育・若手育成委員会へ問いかけてみることにした。